

令和7年度 第2回教育課程編成委員会 要旨

日時：令和7年11月18日(火)13:00～15:30
場所：国際園芸アカデミー 研修室A (オンライン)

【あいさつ（今西学長）】

ご出席いただき、感謝申し上げる。8月4日の開催に引き続き、第2回目の開催。委員の皆様には、今年度末までの二か年の任期で、委嘱をさせていただいている。前回の会議開催以降の本校の動向として、今年度も9月にシンガポールへ6日間、二年生が海外視察研修を実施した。学生にとって、非常に良い経験になったと思っている。現在、インターンシップの時期であり、二年生は10月に15日間、一年生は本日まで10日間インターンシップに参加。関係企業及び団体の皆様には大変お世話になっていることを改めて感謝申し上げたい。

技能五輪全国大会が愛知県で開催され、今年度も本学からフラワー装飾で二年生一名、一年生一名の二名が出場した。残念ながら入賞には至らなかったが、本人たちにとって非常にいい経験になったと思う。また、本日の昼に職業協力開発協会にて表彰式があり、技能五輪全国大会に参加したフラワー装飾の2名が表彰される。

平成30年に、文科省から職業実践専門課程の認定を受けた。その認定基準に基づいて、企業の皆様に意見をいただきながらカリキュラムを作成することになっている。企業の最近の動向、求める人材、本校で教育して欲しい事項について忌憚なくご意見いただきたい。

短い時間にはなるが、様々なご意見をいただきて、本校の今後の運営にも生かしていきたいと思う。また、会議終了後には授業見学の時間も用意した。委員の皆様にはぜひ、ご参加いただければと思う。

【委員会の成立について（宮田副学長）】

委員11名中6名の出席をいただきており、過半数の出席であるため、教育課程編成委員会規程第8条第1項の規定により、本日の教育課程編成委員会が成立。

【報告事項 令和7年度第1回教育課程編成委員会の委員の意見に対する取り組み状況について】

(資料により説明)

- 委員からの意見なし。

【検討事項（1）：令和7年度前期カリキュラムの実施状況について】

(資料1、資料2-1, 2-2, 2-3により説明)

山田委員

- 最近の学生は、自己肯定感があると、さらなる学習意欲につながる傾向がある。自己分析でS、A評価が多く出ているのは、非常に素晴らしい。
- 学生の自己評価に対して、教員からの成績評価と一致してなのかどうか、知見があれば教えていただきたい。

前田委員

- ・個別の学生がどういう自己評価をしたのかが不明で、成績との関係については、把握はしていない。非常に大事なことだとは思うので、分析はしてみたい。

山田委員

- ・個別の学生の自己評価と成績との関係の紐付けは難しいかもしない。

田村委員

- ・M2学生の自己評価のうち、10番～14番の授業について、授業満足度が前年と比べると0.5～0.8点上がっている。これらの授業全てが、新井先生が担当である。教員が授業を行う上で、工夫をされた点や気をつけた点について教えていただきたい。また、そのノウハウを他の教員に共有していくこともよいのではと思う。

井戸調整総括

- ・授業を行う上で、心がけたことについて、講義系の授業科目では、学生が理解しやすいように学生に合わせた丁寧な解説を心がけた。
- ・例として、技術検定の試験対策の科目である造園施工管理では、昨年度の過去問等、最近の傾向を教員で分析し、そのツボを強調して指導した。
- ・実習系の授業では、学生が業界に進んだ際に、これから学ぶ実習の技術が、いかに現場で必要とされているか、活かされるかどうかについての意義づけを授業の最初に、しっかりと説明した上で、実習に取り組ませた。
- ・また、昨年の7人の受講者に対して、今年は4人であり、人数が少なくなったことで、学生にさらに寄り添った指導ができたということも、評価の要因になったのではないかと分析している。
- ・今回の取り組みをもとに、教員全体に共有し学校全体の満足度、到達度を上げていくようにしていきたいと思う。

【検討事項（2）：分野別授業の実施状況について】

(資料3-1, 3-2, 3-3, 3-4により説明)

- ・委員からの意見なし

【意見交換：各業界における最近の動向や、アカデミーに期待する教育内容】**山田委員**

- ・最近、全国の農学部長会議に代理で出席した際の議題について2点紹介する。
- ・一つは、先ほども議論にもあがったが、非常勤講師について。
- ・大学では非常勤講師に依頼している講義の他、オムニバス形式で、複数の教員で一つの科目を担当しているという講義があり、このような科目に関する講義の質の保証について議題に上がった。
- ・これは難しい問題であり、複数の教員が教えることで、講義の統一性、ストーリー性がなくなるケースも発生しうる。また、非常勤講師にも、どのような内容で講義してほしいかを確実に伝達しておかないと、学校が意図した教育につながらないという課題がある。

- ・複数の教員で担当する場合も、外部講師にお願いする場合も、コミュニケーションを図り、学校側の意図を伝えるための取り組みがアカデミーでもあってよいのではないか。
- ・もう一点は、大学でも、学生の就職活動の中で、採用直結型のインターンシップが増え、授業期間中にインターンシップに長期に出かけることが増えてきた。このため、学生からの欠席の申し出に対し、大学としてどう対応するのかが、問題になりつつある。
- ・それぞれ大学が就職活動の定義をして、それにあてはまらないものは自己の意思で欠席するという形で対応。アカデミーのカリキュラム中でのインターンシップと異なると思うが、採用直結型のインターンシップへの対応が大学で議論されている。

今西委員長

- ・非常勤講師やオムニバス形式の授業については、本校でもあり、シラバスで授業計画と授業内容を明確にして、その内容に沿った授業の進行をお願いしている。
- ・また、一コマだけ来ていただくような先生に対しても、担当していただいた講義回にかかる授業アンケートを取り、学生の意見をフィードバックし、次年度以降につないでいく取り組みを実施している。
- ・非常勤とかオムニバス授業について、内容の質の保証というのは非常に大きな配慮すべきことだと思っている。
- ・インターンシップについては、会社に合わせた形で参加をしたいという学生も出ている。できる限り希望に沿うように対応しているが、授業と重なる場合は基本的に欠席扱いをせざるを得ないというような状況である。

國井委員

- ・去年ぐらいから顕著だが、夏場の気温上昇による生産面での影響はあるか。

前田委員

- ・暑さ対策として、ドライミストを入れ、温室の温度を下げている。
- ・しかし、近年の猛暑はドライミストでカバーできるレベルではなくなっている。
- ・毎年10月最後の土日にぎふワールド・ローズガーデンで販売会を行っており、毎年同じ時期にガーデンシクラメンの種をまいているが、例年20~30ケースぐらいは出荷できていたが、今年は花がついている状態で出荷できた商品が1ケースもなかった。
- ・冷房を入れてコストをかけて生産する品目ではないので、困ってはいる。
- ・また、長野の高冷地の生産者にお話を伺ったところ、高冷地でも夏は暑く、平地より多少はいい程度でメリットがないので、撤退を考えているという生産者もあった。
- ・全国的な話で、対策に困っているところだが、今年のような猛暑がずっと続くのか見通せず、投資すべきか、また撤退すべきかについて、全国的に花農家が困っているところではあると思う。

宮田副学長

- ・温暖化対策は、花だけじゃなく、あらゆる分野で問題になっている。
- ・ドライミスト等の短期的に対応できる技術の普及に取り組んできたが、近年の暑さには、対応できない状況。

- ・県の試験研究で、夏場に育てられるような花の品種の選定や研究など長期的な視点での対策にも取り組んでいる。

前田委員

- ・公園では近年、秋でも暖かいので、再度、夏の植物を植えて、秋でも夏の植物をみせていく動きが最近あると感じているがいかがか。

日比委員

- ・公園管理上での大きな動きはないが、先日テレビで、ひまわりとコスモスが一緒に咲いてるシーンが映されており、季節感がずれてきているので、今後、花の咲く時期に今までとは異なる傾向が出てくると推測され、暑さに強いものや病気に強い植物を選定しながら公園設計に織り込むという対応をせざるを得ない。
- ・マルチングで水の蒸散を防ぐことや、灌水装置の設置でも対応していく。

日比委員

- ・本年、緑化フェアがワールドローズ・ガーデンをメイン会場に県内の他の六公園を会場に開催。また、再来年の2027年には、横浜で花博が開催。
- ・周期的に花と緑に関するイベントが開催されており、その都度、非常に多くの集客があり、緑に対する人々の要求度は高いと改めて感じている。
- ・昨今では、指定管理とかPFIに領域が広がって、生徒に求められるスキルも非常に多岐にわたっている。
- ・教育課程の中にSNSの授業があったが、これから時代に必要不可欠なものになってくると思う。どんな商売においても、広報戦略が非常に重要であり、今の若い人たちはSNSに取り組みやすい環境にあると思っている。
- ・ユーチューブ等に動画をアップすることは、自分たちの世代にはできない技術。指定管理者として運営しているなか、インスタやユーチューブで広報すると、従来のホームページを使った広報よりも非常に多くの方に見ていただけている。情報をうまく伝える技術を学ばれるのは非常に良いと思う。
- ・山田委員からも話題が出たが、先日、岐阜大学の社会システム学科の2年生3人の中長期インターンシップを受け入れた。
- ・中日新聞の中濃版に掲載されたが、鳥獣害対策として、ジビエ料理を展開し、11月3日に百年公園で開催したオータムフェスタでジビエバーガーを売るという、最終目標のもとインターンシップに来た。
- ・毎日、会社に来るわけではなかったが、4回か5回に分けて、面談をしながら、目標達成に向けて、何をどうしていくかというプログラミングを計画して成果を出すというインターンシップであり、なかなか面白い取り組みだと感じた。
- ・学生は、アルバイトをする時間を削って参加しているため、そのバイト分に相当する賃金を企業から支払い、インターンシップに参加してもらう取り組みであった。
- ・15日間や10日間という、集中的なインターンシップもよいが、授業スケジュールや個人のスケジュールもあり、調整が難しいところもあると推測できるが、長期的な視点のインターンシップも取り組まれたら面白いと思う。

今西委員長

- ・本校では、インターンシップはⅠ～Ⅲとあり、各インターンシップにてそれぞれ、別会社に行ったりしている。
- ・その中で同じ事業者にインターンシップに行くこともあり、これらの連續性の活用も、今後、参考にさせていただきたい。

田村委員

- ・岐阜県花きの振興に関する条例は、花きを活用することで県民の心身の健康の増進及び豊かな人間性の涵養に資することを旨として平成26年に制定。
- ・花き振興計画は、第1期が平成28年から令和2年、第2期が令和3年から令和7年とし、今年は第2期計画の最終年度。
- ・現在、来年度からの第3期計画について、いろいろな団体に意見を聞きながら作成を進めている。
- ・岐阜県は、最高で98億円の花き産出額があったが、新型コロナ発生等により落ち込み、現在は45億円ほどでピークの半分以下。
- ・これをふまえ、第1期、第2期の計画は、花き文化の振興、園芸福祉の推進、花育の推進、花き産業の振興、花きの活用促進の5本の柱建てで構成されていたが、第3期計画では、花と緑の生産振興、花と緑の文化振興の2本柱に変更した。
- ・一つ目の柱の生産振興は、担い手育成、高品質な花の生産と、流通・販売体制の強化の3項目。
- ・二つ目の柱の文化振興は、花育・園芸福祉の推進や、条例に制定している8月7日の花きの日PRやSNS等を活用した情報発信など。
- ・アカデミーに対しては、引き続き花き業界を引っ張っていく担い手の育成をお願いしたい。また、生涯学習講座などでの文化振興の役割もお願いしたい。具体的にはまだ相談させていただきたい。
- ・高温対策では、米も同じ問題が出ており、米であれば高温耐性品種が今出てきている。花では2,3年前に試験した結果では、夏場の種子の発芽率が5割くらいまで低下する課題に対し、水に酸素を溶かす装置で酸素濃度を高めた水を与えたところ発芽率が7～8割まで上がった事例があった。こういう技術も含め、試験の実証データを確認しながら、生産者、試験場と手を組んで高温対策を進めていく。

今西委員長

- ・今回いただいた意見を学校運営、学習の内容に反映し、学生の身に付くような形で進めていく。今後とも委員の皆様には、引き続きお力を貸していただきたい。

【情報提供：R8 年度からの単位制への移行について】

(資料4により説明)

今西委員長

学校教育法の改正に伴う単位制への移行。

学生へのメリットが基本だと考えているが、大学への編入時の手続きが簡易になるのではないかと思っている。

ただ、それ以外の学生へのメリットは何か？という点は疑問に感じている。

単位制への移行については、議論を重ねていきたいとは思っている。

田村委員

資料に記載のある自己点検評価については、実施しているのか。

今西委員長

職業専門実践課程の認定を受けた学校の場合、自己点検評価の実施は義務となっている。一般的な専修学校では義務ではなかったが、法令改正により義務化になる。本校では自己点検評価は実施済み。

【閉会（宮田副学長）】

委員の皆様には貴重なご意見をいただき感謝申し上げる。いただいたご意見は今後の授業やアカデミーの取り組みに活かしてまいりたい。

以上で、令和7年度第2回教育課程編成委員会を閉会とする。